

電気

電気の大切さをみなさんは感じたことがありますか。テレビを見たり，パソコンをしたり，夜でも楽しいひとときをすごせるのも，すべて電気のおかげです。

コロンボにはじめて電気がひかれたのは，1895年といわれています。今から100年以上も前のことになります。

発電所の建設が本格的に始まり，一般の家にも電灯がとるようになってきたのは，スリランカが独立してからのことです。

1950年，コロンボから東へ約100Kmの，ケラニ川上流にあるラクサーナ水力発電所が発電を開始しました。



水力発電用のサマナラ・ウエアダム

1958年には，施設を拡大し，発電量を増やすようにしました。しかし，水力発電は，雨の少ない時期には発電量が落ちてしまい，停電などの心配もあります。

そのため，政府は火力発電の建設をはじめ，1962年にはケラニテ

ISSAの火力発電所も発電を開始しました。

1980年代になると、次々に水力発電所が建設されました。特に、マハウエリ川にはスリランカ最大の貯水量を誇るビクトリアダム(1984年)、ランデンニガラダム(1986年)が完成し、多くの電力が供給できるようになりました。

近年、日本、イギリスが協力して建設にあたっていたサマナラウエアダム(1992年)も完成し、送電を行っています。

さらに、スリランカ政府の新しいプロジェクト風力発電も操業を開始(1999年)しました。デンマークの進んだ技術を取り入れて、自然環境を壊す心配のない発電が始まったのです。

*このように大きな工事には、日本のODA(政府開発援助)が活用されています。

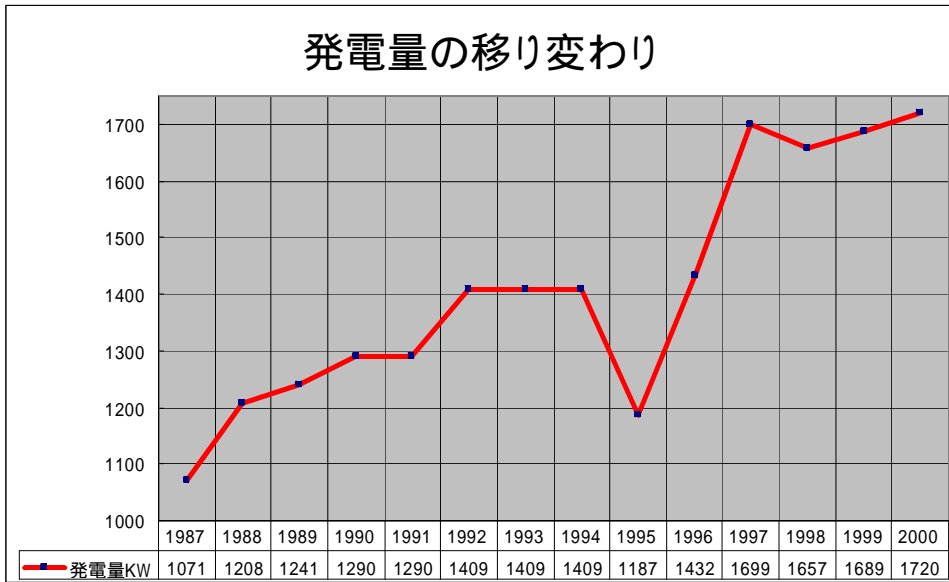


火力発電所



風力発電所

また最近アッパーコトマレ水力発電所が建設中で、2008年以降の電力供給に対応するために環境・社会的配慮を行いつつマハウエリ河支流コトマレ川に流れ込み式水力発電所を建設して、増大する電力需要に対応することで、同国の経済成長に寄与することを目的としています。日本政府が援助をして作り出したダムです。



* 2000年は予想値